

## 「税法学」に投稿できる原稿

—論説、判例研究、外国税制研究、書評、研究ノート、事例紹介の区別—

2026年6月20日 「税法学」編集委員長

- ・論説 (Article, 原則2万字～4万字) : 税法に関する特定のテーマや問題を設定し、その検討を行うもの。複数又は一つの裁判例や裁決例を題材に、そこに含まれている問題を検討したり、あるテーマにつき外国税制と日本の税制を比較し、あるべき解決法を探求したりすることもできる。
  - ・判例研究 (Case Analysis, 原則1万字～2万字) : 一つの (まれに複数の) 裁判例や裁決例を題材に、その裁判例・裁決例の意義や位置付け、そこに含まれている問題点、その裁判例・裁決例の射程を検討するもの。
  - ・外国税制研究 (Foreign Tax System, 原則1万字～2万字) : 日本以外の税制について紹介・検討するもの。基本的に日本の税制との比較検討は行わない。
  - ・書評 (Book Review, 原則1万字～2万字) : 税制に関する書籍を要約・紹介し、その意義や問題点を評価するもの。
  - ・研究ノート (Note, 原則3千字～2万字) : 特定のテーマや問題を設定し、その検討を行うが、論説よりも狭いテーマ・問題設定で書くもの。論説のコンパクトなものという位置づけで、「税法学」への原稿投稿初心者向けでもある。判決裁決を得た事案ではないものの自己の体験した調査事案や申告書作成上で悩んだ問題などを下敷きにして、後述する事例紹介と類似した枠組みを採用して執筆することも可能 (例えばI. 申告内容と納税者の立場、II. 課税庁側の調査時の説明、III. 検討、といった執筆枠組みを用いる)。
  - ・事例紹介 (Case Summary, 原則3千字～1万字) : 一つの裁判例や裁決例を題材に、その事案が生じた背景・判決等の意義と射程、今後の課題を検討するもの。I. 事実の概要、II. 判旨、III. 検討 (1. 事件が生じた背景、2. 判決等の意義と射程、3. 今後の検討課題) という決まった構成で執筆する。形式が決まった、短い判例研究との位置付けである。研究ノートと同様、「税法学」への原稿投稿初心者向け。
- \* 研究ノート及び事例紹介が導入された背景については、第115回総会 (2025年6月8日) 資料『「税法学」執筆要領の改定などについて』を参照のこと。

以上